

第1回 生駒市総合計画審議会第二部会

1 日 時 平成25年7月4日(木) 14:00～

2 場 所 生駒市役所 4階 401・402会議室

3 出席者

(委員) 久委員、楠下委員、今任委員、福島委員

(事務局) 今井企画財政部長、西川企画政策課長、岡田企画政策課長補佐、
岡村企画政策課企画係長 加納企画政策課係員

4 欠席者 久保委員

5 議事内容

(1) 各分野の検証

(部会長は久委員に決定)

【久部会長】 部会としては慣れた方々ばかりなので、またいろいろお知恵をいただきたいと思う。よろしくお願いします。

①No. 311 土地利用

【担当課】(検証シートについて説明)

【今任委員】 2-2の代替指標は累計か。

【担当課】 はい。

【今任委員】 地区計画は、市の方から働きかけたのか、市民の方から働きかけがあったのか。

【担当課】 市から働きかけた。

【楠下委員】 地区計画を導入するというのは、ハードルが高い面もあると思うが、地域住民側から自治会を経由して取り組みを進めていこうというようなところはあるのか。

【担当課】 今現在のところ、住民主体に地区計画を入れられたというのは24地区のうち4地区である。

【今任委員】 これは既に宅地が造成されて住民が住んでいらっしゃるところで新たに地区計画の導入を問うたのか。これから分譲するよということであらかじめ決めたという地区計画の増えた数なのか。

【担当課】 平成20年度から平成24年度の増えた数3件については、2件が商業地域で1件が住宅地である。

【楠下委員】 地区計画は開発の段階からしているケースの方が多いのか。

【担当課】 ほとんどが当初から。

【楠下委員】 例えばまちができて20年、30年たつと土地を分割するとか、そういったケースが出てきてその時点でやるとなると、なかなか取り組みのハードルが高いようなケースがあると思う。そのあたりを、空き家・空き地対策とか、こういったところで推進していただくと良いと思う。

【担当課】 空き家・空き地対策と地区計画とは少し違っていて、空き家・空き地対策はどちらかというところ、まちづくり、地域のコミュニティ、を中心に考えており検討課題には入っていない。

【福島委員】 3-4(B) No. 25の具体的な事業内容として、郡山土木事務所などとの連携を密に図ると書いてあるが、サービスつきの高齢者住宅というのを生駒市で幾つか、新たに着工されているところがあると思うが、こういうものについても奈良県とか郡山土木事務所と連携を図って実施しているのか。

【担当課】 開発の許可が要るようなものになると、開発の許可権者が奈良県なので、その場合は協議するが、開発の許可が要らないところで例えばそういうのを建てるときには、郡山土木事務所との協議なしで、市単独で指導している場合もある。

【楠下委員】 都市計画マスタープランについて。今後やはり本格的な省エネとか創エネとか節電をやろうとなると、まちづくりと非常に連携してやっていく必要があるかなと思うが、市民アクションプランで取組をされるのか。

【担当課】 都市計画マスタープランは行政が主体的に取り組むまちづくりのために、市民アクションプランは市民のための行動計画ということで策定した。まちづくりというのは行政だけではなく市民も密接にかかわるため。できたら低炭素促進法の内容を都市計画マスタープランの方にも盛り込みたいと考えている。

【今任委員】 今の地区計画に関連して、部の仕事目標設定事業のNo. 13の出前講座の実施というのは、行政からのアタックでやっているということか。

【担当課】 出前講座の要望があつて出かける。

【今任委員】 地区計画導入案の作成というのは、住民とのいろんなディスカッションの中から出てきたことか。

【担当課】 開発事業に伴って、生駒のまちづくりに合致したようなまちにしてほしいということで、地区計画も事業者とすることもある。

【今任委員】 これは開発事業者と意見を交わして作成したということか。

【担当課】 はい。ただ、すでにできているまちに地区計画を入れるというのはなかなか難しいので、今のところ4件にとどまっている。

【今任委員】 実際に恩恵を受ける住民と、やってよかったという行政との関係で、既にできておるまちに地区計画を新たに入れて、あるべき姿の方に持っていくというのがお互いの本来の姿であると思う。

【担当課】 住んでおられるまちとか家とかというのは、自分たちで守っていただくとくものなので、皆さんで考えたり行動できるような人材育成、そういう取り組みを主に今している。

【久部会長】 どうしても検証シートの内容に議論が行ってしまうが、我々がチェックしないとイケないのは総合計画の本体の76ページ、77ページの小分野3の(1)－①という、土地利用のところがちゃんと動いているかどうかということ。その分かりやすい指標として、今、未利用地の面積が減っていくことと、地区計画の導入地区が増えていくことが示されているが、本来、それだけではなくて、きちんとした土地利用が進められているのかということと、持続可能でコンパクトなまちになっているかどうかということがポイントなので、そういう意味では、トータルに考えていただいて、そこに向かって走っているかどうかというところのチェックをお願いできたらなと思う。

【今任委員】 指標No.1について。確認申請にしる開発申請にしる、生駒市を經由していくので、将来の予測はある程度できるのではないか。

【担当課】 それは、代替指標に示している。

【久部会長】 各委員の評価をお願いします。

【福島委員】 評価C。補助指標はそこそこ達成していると思う。今後は、未利用地の有効活用の実績を生かして、ほかに横展開できるようなところがあれば、さらに未利用地を減らす施策につなげてくださいますようお願いしたい。

【楠下委員】 評価はC。かなり前向きな目標設定をしておられるし、今後、これの実

現に向けて、ぜひ取り組みを進めていただきたい。

【久部会長】 私も頑張っていらっしゃるのは評価するが、これは事業者、市民がその気になってもらわないと実現が難しい部分ですので、C評価とする。部会評価もC。

②No. 312 住宅環境

【担当課】 (検証シートについて説明)

【福島委員】 3-4(1)A No.12について、この15件という目標の根拠を教えてください。

【担当課】 これまでの推移を見て設定した。23年度は、15件の募集をしていたが応募が10件だった。応募状況で判断している。昨年から補助金額を30万から50万に上げさせていただいたのでその影響もあるかも知れない。

【久部会長】 でも、これはなかなか難しい問題だ。個人の財産なので市の税金を使っ
てまでやる必要があるのかどうかというところで、その動機づけ、意識づけで、若干でも
お金を差し上げることで意識を高めてもらいましょうということなので、そこのあたりの
公的意味というのが、なかなかこういう住宅政策では難しいなと思う。

【担当課】 耐震補強が必要な戸建ての住宅は、およそ2,700軒あり、年間350
件ぐらいやっていかないと27年度の目標の90%に上がらない。フォーラムなどで周知、
啓発はおこなっているが。

【今任委員】 耐震改修の目標設定について。これまでの成り行きで予算も決まってい
て、個人財産で云々というところがあるから、目標15件で、結果が17件でa評価とい
うのはおかしな気がする。

【福島委員】 総合評価のところの客観指標評価と、役割分担状況の行政の部分との乖
離の理由のところをもう少し御説明いただきたい。

【担当課】 指標は耐震化に関する目に見えるハード的なものと、役割分担の内容とが
合致していないということを書いている。

【久部会長】 上の理由も下の理由もよく似ているところがあって、結局、やりたいと
思っている人にはちゃんと伝わってやっているけども、本当にやってほしい人には情報も
伝わらず、やるということまで行けてないというのがこのギャップで出てきていると思
う。

【久部会長】 事業者に関しても行動させるような働きかけをすとか。例えば、耐震

ではないが遷都1300年祭のときに、あそこの沿道にある看板を小さくするのに県が補助金を出した。20件ぐらい上がってきたがいろいろ聞いていると、看板業者がそれぞれの店を回って、今変えたら補助金が出ると言って、それで進めてくれたというのがある。当該沿道事業者のところは150万ぐらい入ってくるわけなので、業者に勧めさせた方が早いのではないかという気もする。

【今任委員】 評価はC。耐震については、もう少し積極的に、特にここは救急車が通る、あるいは、そういう援護車が通るところについてはもっともっと積極的に働きかけていくような、そういうアクションが必要だと思う。

【福島委員】 行政の支援する取り組みがaになったことによって全体がbになるにはまだ至っていないのかなと思うので評価はC。耐震化以外にもいろんな安心・安全のために、住宅環境をよくしていくために何が望まれているかというあたりの情報交換なども、もう少し積極的に進めていただければ全体としての満足度は上がるんじゃないかと思う。

【楠下委員】 行政としては非常に適切な対応をされていると思うが、市民レベルの評価を見てみますと、やっぱり情報の伝達をもう少し綿密にやっていただいたらもっと効果が出るということで、評価はC。

【久部会長】 私も評価はC。耐震は進んでいるんですけども、バリアフリーとか省エネとか、そういうものもこの項目の取組に入っているんで、そのあたりをトータルに考えてみると、まだCかなという感じがしている。これは前回も御指摘があったと思うが、今度、基本計画を見直すときには、今の指標は両方とも耐震関連なので、もう少しバリアフリーなり省エネも含めて、ちょっと指標にもバリエーションをつけた方がいいかなという感じがしている。

【今任委員】 これは住宅環境というところなので、快適に暮らせるという意味で、竹であれ、木材であれ、奈良県産材をもっと積極的に生駒の住宅に使うような、何かそういうふうな指標が作れないものかなとも思う。例えば吉野の杉で部屋中をやったら、ちょっと障がい者の方の状態がよくなったとか、そういう実例も幾つも幾つも聞いている。これからはそういうのを指標に取り入れてやっていくといいなという気がする。

【久部会長】 なかなか、ここがいいのかどうかというのはちょっと悩ましいなと私は思っている。木質にかえていくことによって環境がよくなるという話と、県産材を使って、いわゆる経済を、あるいは環境の循環を図るという話と両方あると思うが、県産材で循環を図るという話になってくると、環境の方で、その中で住宅へも取り入れるという方がび

ったりくるのかなという感じはする。

③No. 321 道路

【担当課】 (検証シートについて説明)

【楠下委員】 確かに今おっしゃいましたように、メインのテーマに上がっているところについては着実に取り組みをされておるので、目に見えていると思う。

【担当課】 順調に事業は進めているが、いかんせん用地買収などそういったところで、目に見えないところもありまだ完成に至っていないと。工期が例えば2年、3年とかかるので、そういったものはなかなか指標にあらわれてこないのも、こういう結果になっている。要望については、道路の整備の要望よりも、維持補修の方が最近は特に多い。今は通学路の問題とかもあるので、そういったものを特に優先してやっていっている。

【福島委員】 市民実感度度評価を求める問い掛けの文言が、目指す姿の表現そのままでは、その他の評価とは乖離した状態のままになると思う。なぜなら、2年前ぐらいの同じ御説明をお聞きして、そうだなと思ったのだが、市役所が対象にしているのは市道だが、アンケートでみんなが想像している対象は道路全般であるからだ。このままでは、この認識の違いというのはずっと平行線で残りそうなので、実感度調査ではそこを明確に意識して評価できるように工夫する必要があるのかなという気がする。それとは別に、道路をよくしていくという基本的なプロセスは同じであるので、それぞれがどのプロセスにあるかというのを把握し、時系列的にしっかりと前へ進めていけるかどうかは課題であると思う。

【担当課】 それぞれ路線ごとに、どういった目的で造る道路とか、ほかの事業と絡めていつまでにしなければならない、何年度までに完成しなければならない事業とか、地元の要望で何年先までにやってほしいとか、そういったそれぞれの完成年度、しなければならないという目標は、当然、立てているが、どうしても新しい道路を造るということになると用地買収などで時間がかかることがある。

【福島委員】 そういう感想を持ったのは、例えば客観指標のNo. 2において3年続けて同じレベルでとどまっているとしか表現できないのは何となく残念な感じがする。そういう意味では、指標にプロセス評価というのを設けていただくという方法もあると思う。

【久部会長】 指標は、いわゆる主要道路だが、道路という項目でいうと生活道路の改修も入っている。次に後期基本計画を作り直すときに、本当にメインの道路だけでいいのかどうかとか、そのあたりは検討の余地はあるのかなという感じがする。

【担当課】 維持補修工事については、最近は、今までの道路をよくしてほしい、老朽化して傷んできているので歩きにくいとか、そういったことがあるので改修してほしいというようなことが結構多くなっている。

【久部会長】 道路だけではなく今後、土木課としての仕事は維持管理の方にだんだんシフトしていこう。それをそろそろアピールしておかないと、造ることがなくなったらその部署は要らないのではないかという方向になってしまう。うちはちゃんと維持管理もやっていて、これを着実にやっているというようなアピールの仕方も、指標で要ると思う。福島委員がおっしゃったように、なかなかその乖離が埋まらないということであれば、そっちの改修、維持管理もちゃんとやっていますというような形で埋め合わせていくという戦略も要るのかなと思う。

【楠下委員】 いろいろ外部から苦情が出る前に、ある指標に基づいて定期的にメンテナンスもやっておられると思うが、そういうものをより徹底すると、少しずつそういう苦情が減ってくるんじゃないかと思う。それから、道路は景観と非常に密接に関係する。例えば電信柱というのは物すごく景観を悪くするが、そういう景観も含めた道路の設計をやっていただくのが町並みをきれいにする基本だと思う。その辺はどういう取組をされているのか。

【担当課】 景観のガイドラインに沿っている。今、宝山寺へ上がる参道の参詣線という歴史的な道については、景観をできるだけ維持できるような形で進めている。

【楠下委員】 それと、安心・安全という意味では、やっぱり電信柱が邪魔になって何か事故になったりというふうなことがあるので、その辺も十分御検討いただきたい。

【久部会長】 それも重要な御指摘だと思う。いわゆる道路の高質化。質を高めていくという、そういう役割も今後は必要かなと思う。道路を新設する時代から維持管理なり、既にある道路の質を高めていくというような時代になっているという御指摘。

【楠下委員】 10年、20年先を見て、景観も配慮した上で道路行政を進めていただきたい。雨水の浸透性にかえていただくとか。やっぱりいろいろまだ質的な面で検討課題があるかなと思う。現実の計画については着実にやっておられるので評価はC。

【福島委員】 評価はC。今後は、今あるところが何メートルきれいになりましたじゃなくて、質も含めて、今これだけの進捗をしていますという分かりやすい形で進めていただくと皆さんの納得も得られやすいんじゃないかと思う。

【今任委員】 私もほとんど一緒です。特にNo. 13から22、23、26、27と

未達の理由というのが非常に分かりやすく書かれている。評価はC。

【久部会長】 私も評価はC。大げさに言うと、土木行政の転換の時期なのかなと思うので、その維持管理、あるいは質的な向上ということで、まだまだ土木技術者というのは行政の中でも必要ですよと、そういうことでPRしていく時期かなと思う。環境への配慮とか、そういうことも含めて、トータルで土木行政が変わっていただけるきっかけが今後出てくればなと思っている。

④No. 313 拠点整備

【担当課】 (検証シートについて説明)

【福島委員】 指標No.1の25年度の数字が極めて高くなる見込みということだが、どのぐらいの予定なのか。

【担当課】 ほぼ100%になる。工事の出来高の曲線が最後に上がってくる。

【久部会長】 ここの評価はいつも困る。駅前再開発だけでなく、学研高山第2工区もある。第2工区は先ほどの御説明には余りなかったので、どう考えさせてもらったらいいかと思う。

【担当課】 高山第2工区については、前期の基本計画では大学を中心としたまちづくりについて県、市、URの3者で検討して体制づくりをしていくということで表記しているが、現在は大学中心のまちづくりは検討を中止している状況である。その一方で、今、生駒市では第2工区について、皆さんも御存じのとおり、リニア中央新幹線の新駅を誘致して、新たなまちづくりについて検討している。

【今任委員】 3-4(2)A No.23の未達成の理由に、「複数の自治体が誘致を表明したため」と書いてあるが、どこも手を挙げるとは思っていなかったのか。未達成の理由としていることがよく分からない。

【担当課】 当初は郡山市が一番初め、手を挙げかけていたということは知っていたが、奈良市と天理市は予想していなかった。未達成の理由については、PR資料作成にあたり、郡山市は意識していたが他市のことは加味していなかったのが未達ということになった。

また、昨年7月にまずタウンミーティングをして市民の皆さんに市の考え方を御説明し、いろいろ御意見を伺った。一方で、誘致した際、どんな効果があるのかとかいうことについては、まだ現時点では調査中で今後まとまる予定。

【福島委員】 そこが一番大切なところだと思う。どれだけ実現可能性のあるものなの

か、そのためには何をしなきゃいけないのかというところを早く詰めていく努力をお願いしたい。

【楠下委員】 リニア新幹線の駅ができるとまちが一変し、生駒全体のいろんな商業とか住居の都市計画が変わってくる可能性があると思う。だから、10年、20年先の絵も描いておられると思うのだが。

【担当課】 まだ具体的にはそこまで考えていない。今は、構想を立てて誘致をしていくというところにとどまっている。

【久部会長】 地域がどう活性化するのかなという点はなかなか難しい。

【楠下委員】 京都に近く奈良にも近いということで、歴史的な観光地が直結しているので乗降客はあるかなと思う。

【担当課】 もう一方で、我々が考えているのは、京都、大阪、奈良にまたがる3府県の位置にある学研都市というポテンシャルを生かしながら、いかに研究開発型系のビジネスの機会とか、そういったことをどうやって創出して行って、乗降客数をうまく増やして、できる限りリニアの本数をとめていただけるような、そういうまちづくりができないかというようなことは考えてはいる。

【久部会長】 そのあたりの、いわゆるソフト施策は他市との連携というのが非常に重要になってくると思う。ちょっとタイプは違うが、関空ができたときに泉州は少し浮かっていた。私はそんなうまくいくわけないと言っていたのだが。と言うのも、海外から来た人は空港の近くでは何もしないと思う。すぐに都心部に入ってしまう。自分の行動を見てもそうだが、泉州に空港ができてその近辺で泊まったり買い物したりはしないと思う。交通拠点が出来ることに対してみんな過剰期待をしてしまう。だから、生駒も奈良とか京都に泊まられて、単なる乗りかえ駅になってしまわないように、何かそこに仕掛けをしておかなければならない。

【福島委員】 いい方になるか悪い方になるかは別として、早く検討の対象を具体的なものにすることが、最終的には市民のためになると思う。例えば、観光についてみると、私は自分が東京から一瞬で来て観光したいかなと思うと、余りしたくない。その途中も楽しみたいから。そういう人もいる。

【久部会長】 東京へ頻繁に行くビジネスマンで、自然環境豊かなところで暮らしたいという人は可能性があるとは思う。

【楠下委員】 評価はB。内訳として、再開発の評価はAに近いBだが、第2工区はC

とBの間に近いので。

【今任委員】 評価はC。第2工区の方は、結論が出てからということになるだろう。

【福島委員】 評価はC。私は、Cマイナスの方だが、平成24年度に関しての検証と考えると、再開発は予定どおり進めていただいているのでそれは評価するが、それ以外の、総合計画で行政が主体的に実施する取組として掲げていらっしゃる地域拠点の形成に向けての近鉄けいはんな線各駅周辺地域云々の都市計画の視点とか、今の、リニアを含めた第2工区については殆ど具体的に進んでいないように思った。

【久部会長】 私も大体皆さんと同じで、北口の再開発だけとったら十分Aだと思うが、やはり高山第2工区が足を引っ張るので、それをトータルすると、Cにならざるを得ない。

⑤No. 511 学研都市

【担当課】 (検証シートについて説明)

【福島委員】 所管が企画政策課から地域整備課に変わったのはなぜか。

【担当課】 地域整備課には北部開発係があり、高山第2工区など北部関係の仕事を担当している。学研都市についても、地域整備課の方が関係は深いのでこちらに移った。

【楠下委員】 指標の連携事業について詳しく伺いたい。

【担当課】 まず、子供たちの学力の向上を目指して、市立の小中学校に研究者が行って、そこで児童・生徒に授業を行うような特別授業があり、次には北コミュニティセンターで質問の音声認識して答えるロボット、他にはパネル展や山中教授を祝うのぼり、AET(アシスタント・イングリッシュ・ティーチャー)を実施している。

オープンキャンパス、サイエンスフェスティバルなどもあり市としてはPRをしているが、どこまでが連携事業かという判断は難しい。

【今任委員】 奈良先端大学と連携した企業誘致は目標には掲げていないのか。

【担当課】 企業誘致は別の部署で、No. 531企業立地のところで。

【久部会長】 前回は指摘をさせていただいたが、例えば横断幕をつけたというのは確かに連携してやっているのかも知れないが、それが本来の目的ではないはずだし、留学生が子供たちに英語を教えるのも、ちょっとこれも目的外というか、本来は知的資源をどのように地域に還元してもらえるかというのが本来のこの趣旨だと思うので、そういう意味では、ちょっとまだまだ頑張らないといけないんじゃないかなと思う。

【今任委員】 この指標について、今のお話を聞いていると事業数じゃなくイベントの

数みたいなものだと思う。ちょっと視点を変えないと、目指す姿から離れていくような気がする。

【久部会長】 総合計画の冊子の現状と課題というところに書かれている「先端技術などの研究が活発なまち」というのが4.8%しかない。そのあたりをPRする戦略というのは、昨年度は何かあったのか。

【担当課】 先端大のパネル展を実施したのは市民に対して先端大の認知度を高めると。今まで先端大すら余り分かっていなかったということがあったので、それを高めると。そのときに一緒に、山中先生を輩出した学校だということをあわせてPRさせていただいた。

【久部会長】 これは生駒市だけじゃなくて、先端大の責任でもあると思うが、やっぱりもっと対外的に情報発信をしたり、あるいは地域連携を図ったり、大学側も頑張ってもらい必要があると思う。研究者や学生にとって魅力ある生活環境を整えるというのが行政の役割にあるんですけど、具体的な取組はあったか。

【担当課】 以前、外国人の来訪者に向けた外国語のサインを作ったことはある。

【久部会長】 高山地区へ向けて、既にいろんな公共機関のルートがあるよという形で連携が図れれば、高山地区の魅力もアップできるし、ついはリニアが来たときも、既に基盤は整っているという話になると思う。そこは、学研都市だけを考えるのではなく、高山地区全体の活性化と学研都市を核としたものが連動していけば、もっと何かいろんなことが考えられると思う。

【今任委員】 奈良先端技術大学院大学自体はどんなスタンスなのか。

【担当課】 余り積極的な動きというのはないというのが実情。学校全体というよりも先生の取り組みによって変わるが。

【今任委員】 例えばこういう先生がいるとか、先生の特徴なんかは把握されているのか。知的財産を活かそうということなので、一人一人の先生の性格とか、どんな研究をされているとか。

【担当課】 研究内容とかは後で資料を見たら分かるが、詳しいところまでは把握できていない。

【福島委員】 評価はC。もう少し学研都市としての基本的、もっと根源的なアプローチから考え直して、結果として先端大を生かしていくように御検討を進めていただきたい。

【楠下委員】 評価はC。学研都市と生駒市との連携をどうするかというところが、検

討課題だと思う。プロジェクトチーム的なものを作って長期的な取り組みを検討するとか、そういうものも設立される必要はあると思う。

【今任委員】 評価はC。目指す姿の進捗度の中の市民の実感度評価は結構高い。だから、市民の認知度や期待感があるが、その割に目指す姿と具体的な指標とが、この指標を高めていったら目指す姿に近づくというふうにはどうも思えない。だから、もう少しこの目指す姿を手に入れるためには何をしたらいいかというところをもうちょっと掘り下げて、具体的な行動をされた方がいいような気がする。

【久部会長】 目指す姿と現状を見たときに、シビアに言うとDかなという感じがするが、かなり難しいということもあるので、私もCだと思うが、実質的にはDなのでやっぱり努力、創意工夫というのもしていただきたいなと思うし、生駒市ばかりが頑張っても上がってこないところなので、やっぱり大学院大学への呼びかけもしていただき、向こうからも積極的なアプローチが出るような形での連携というのをぜひとも図っていただきたい。今日の案件は終了しました。